

記者会見質疑応答

日 時 令和7年10月21日（火）午前10時から
場 所 第2応接室
出席者 ○市 側：市長、木村副市長、総合政策部長、健康こども部長、産業経済部長、
教育部長
○記者側：9社10名参加
発表内容 ・令和7年度苫小牧市自治貢献者・郷土貢献者表彰について
・令和7年度苫小牧市文化賞・文化奨励賞表彰について
・令和7年度苫小牧市青少年表彰について
・令和7年度苫小牧市技能功労者表彰について

<案件について>

各社質問なし

<その他 案件以外について>

○苫小牧民報社

市長にお尋ねしたいのですが、先日公明党さんが自公の連立を解消したということで、元自民党员だった金澤市長は今回どのように受け止めていますか。

■市長

今回の動き、長らくこの日本の政権を担ってきた自公の連立というものが解消されたということですが、いろいろここまでに至る経過というものがあって、両党もいろいろなやり取りがあって、今回の結果になったということだと思いますけれども、いずれにしても、今後の日本をしっかりと、国政に関わる国会議員もそうですが、政府の機関も含めて、そういった方々が国を牽引していただけるような体制が今後できてきたらいいと思っておりますし、今日新政権が、初の女性首相が誕生するのではないのかと言われておりますけれども、与野党問わず国民のためになる、そのような政治をしっかりとやっていただきたいと期待をしております。

○苫小牧民報社

今回公明党さんがこういう形で離脱することによって、例えば金澤市長と苫小牧市議の方たちといろいろあったと思うのですが、その辺の影響というのは今後出てくるのですか。

■市長

現段階ではそのあたりはどのような影響があるというのは見いだせないところでありますので、動向を見守りたいと思っております。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

今後の各級選挙への影響について、どのように市長は今の段階で見通していらっしゃるのかということをお伺いしたいのですが。

■市長

まず国政選挙につきましては、これは北海道だけではなく全国で自公で協力をしてきたということはあると思いますし、北海道ですと北海道4区の問題もあると思います。

このあたりは、中央の動きと地方の動きが今後どのように変わっていくのかというのは、これは今の段階では何も私もわからないところですので、注視をしていきたいなと思っておりますし、今後地方選もいろいろな場面であると思います。1年数カ月後には苫小牧市議会選挙もありますし、そこへの影響というものがどのようなのかということも、現段階では明言できないと思います。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

釧路湿原のメガソーラーをめぐり、報道ですとか、住民の方はいろいろと不安を抱いている方も多くなっているのかと思っているのですが、苫小牧もラムサール登録のウトナイ湖があり、そこに重要河川として美々川があると思うのですが、その周辺で最近開発の動きが出てきていると思いながら見ているのですが、市長自身あのあたりでの太陽光パネルの設置についてどのようなお考えをお持ちになっているか、自然環境の保全について中心にお伺いしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

■市長

まず釧路湿原の事案については、報道ベースではございますけれども、私もいろいろ問題があるということは承知をしております。

現在、美々川周辺におきまして太陽光パネルの設置計画が増加しているという認識は私は持っておりませんが、市としましては今後そういった計画が生じた際には、本年6月に施行いたしました、苫小牧市の自然環境等の再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例、これに基づきまして、市が事前協議をするということになっておりますので、その中で法令に基づく手続きが適切に行われるように、そして周辺関係者への周知説明が適時適切に行われるように、指導助言することによりまして、自然環境との調和を図る、そういった形で太陽光発電事業等、再生可能なエネルギーの導入に努めてまいりたいと、このように考えております。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

美々川のウトナイ湖に近い方の周辺区域で、2020 年辺りに太陽光が 1 件設置されているのを確認しているのですが、あのあたりは重要野生生息地として指定されている場所で、環境省のガイドラインを見ますと、重要野生生息地に関しては、事業者の環境評価というのを規模によらず求める事例の一つとして記載されています。ですので、市でそのあたりが重要野生生息地であるということを踏まえ、その区域内については環境影響調査を求めるということを決めるということなど、一步踏み込んだ対応をしていかないと、なかなか歯止めにならないのではと感じているのですが、市長のお考えはいかがでしょうか。

■市長

事前の協議というものがなくなってまいりますから、その中でしっかりとそういったことについても、確認を取っていくということが必要だと思います。

それからさらに一步踏み込んで、もっと具体のそのような規制を事前にかけていく必要があるのかどうかというのは、本年制定したばかりの条例ですので、これから動向を見ながらだと考えております。

○読売新聞社

公明党の連立離脱ということで、苫小牧の市政は自民党さんと公明党さんで、与党会派という形かと思うのですが、金澤市政を支えているところが中央で別れてしまったということで、そのあたりは何か懸念や影響はありますか。

■市長

現段階でその辺の影響が明確にどうなるかというのは、ここでお話することはできませんけれども、自公で国政が連立を組んでいるということと、地方政治において首長をどう支えるかと、苫小牧のことを考えましても、国政の連立ありきではなくて、政策の部分での、市議会においては与党会派がどういう構成かというものもあるかと思いますので、その辺りは今回の連立政権からの公明党の離脱というものがどのように影響するかというのは、必ずしもイコールで影響があるというようにはならないと思っております。

○読売新聞社

今のところ公明党さんの方からこれまでどおりよろしくとか、そんなような働きかけなりサインはあったりしますか。

■市長

公式なものはありませんけれども、いろいろ常に情報交換もしており、これからも頑張っていこうということは話しております。

○読売新聞社

頑張っていこうというのは、金澤市政を支えて進めるよう頑張っていこうというそういうようなことですか。

■市長

そういうことです。

○北海道新聞社

本日自民党の高市総裁が総理大臣の指名を受ける見通しですがけれども、高市総裁、例えば責任ある積極財政とかいろいろな政策を掲げていますけれども、市長として特にどのような政策に期待や関心を持って見ているか、教えていただけますでしょうか。

■市長

いろいろな分野で今後どうなるかというのは、高市さんが首相になるかどうかとはまた別に、憂慮すべきものが我が国においてはあるかと思います。

ただ一つはやはり防衛のことについてもそうですし、あるいは経済のことについても日本が世界の中でどういう存在感を示していけるかということにまず注目しておりますし、財政的なものもそうですし、データセンターもそうですけれども、GX、DX、こういったものの推進が止まらないようにこれからもっと国が牽引をしていただいて、地方が元気になるような政策をやっていただきたいと期待しております。

○北海道新聞社

昨日自民党と日本維新の会が連立政権の樹立で合意をしましたがけれども、これに関して思うところ、あるいはこういうことを期待したいということがあったらお願いします。

■市長

この後も東京に伺って、港湾あるいは苫東に関する要望も行うことになっておりますけれども、やはり国の政策によって大きく地方は影響を受けますから、自民維新の連立に変わっても我が国をしっかりと良い国にしていけるように、そして地方にしっかりと良い政治を届けていただけるような、そういったことをどんどんやっていただきたいと思っております。

○NHK

クマの被害が全国的に非常に増えておりますけれども、苫小牧市ではどのような対策をとられて、被害が出ないように今後どうしていかれるかというのを、教えていただけますでしょうか。

■市長

クマの被害は今や北海道だけではなく全国的に報道されておりますけれども、苫小牧市内でもクマの目撃情報というのが、結果的に誤情報だったというようなものも含めて非常に増えているのが現状であります。

現在年内にゾーニングの計画の素案を作成することになっておりますので、できる限りクマと遭遇しないような、そういったゾーニングをできるように今検討しているところでございます。目撃情報があった場合の対応も、地域あるいは学校に対して市から情報提供をしっかりと行い、パトロールもしておりますので、できる限りのクマ対策をこれからもやっていきたいと思っております。